あゆみ

『紛争のない世界』

理事長　森　公夫

三年越しの宿題になっていた六十周年記念誌がやっと出来上がってほっとしています。記念誌は、松山教会の一隅にともされた小さな灯りが今の形になるまでに、どれほどたくさんの方々の善意と努力が注がれ続けたのかを振り返る貴重な節目になりました。改めて皆様方のご厚情に感謝いたします。

さてこの一年は、テレビニュースの中に、「これまでにない」という言葉が、それこそ今までになく多い年であったように思います。気候変動や事故事件もさることながら、日本に暮らしていては感じにくい世界各地の紛争や戦争を、身近な生活用品や食料品の高騰などを通して、ひしひしと肌身に感じる年でもありました。

千葉商科大学のサイトに、「なんで戦争は起こるの」と先生に質問した小学生のことが掲載されていました。先生の答えは次のようなものでした。

ひとつ目は「民族」の争い、ふたつ目は「宗教」の争い。みっつ目は「資源」の争いで、よっつ目は「政治」の争い。その上に「領土」の争いがあって、それらが複雑にからみあって戦争が起こります。

そう考えると、たしかに今世界中で起こっている紛争の原因はすべてその中に含まれていて、そのどれもの裏側に、人間の「欲」というキーワードが隠されていることに気が付きます。

一方、人類が進化し今日の文明や文化を手に入れた原動力も欲ですから、それをすべて否定する事はできませんが、少なくとも他人の命や人生を奪い取るような欲の存在はあってはいけないのです。

戦争は、いい人が悪い人をやっつけるというような単純なものではありません。それぞれ良い人同士が兵士に仕立てあげられ、自分に正義があると信じて攻撃しあうのが戦争です。いつの時代も、戦争の正義は為政者によって捏造されるものです。

戦場から遠く離れたところでテレビを見ている私たちが、チャンネルを選ぶだけで、いきなり傷ついた人々の姿や瓦礫の中に崩壊した暮らしをリアルタイムで見るという事実に底知れぬ恐ろしさを感じます。また、万民を救い幸福に導くはずの宗教が、争いの元凶になっている不条理に悲しさを覚えます。

日本の人々が呆然と焦土となった国土を眺めた時から八十年近く経ち、その惨状を知る人、肉親を戦火に奪われて悲嘆にくれた人は、平和ぼけした国民の中のほんの一握りになってしまいました。歴史と流行は繰り返されると言いますが、決して繰り返してならないのが戦争だと心に刻みましょう。

新しい一年、銃弾の飛んでこない暮らしを与えられていることに心から感謝するとともに、冬の寒さの中で恐怖と不安に怯える人々に、一日も早い平穏な生活が戻りますよう、神様に、仏様に。私たちそれぞれが祈ることのできる人知を超えた力に、思いをひとつにして祈りたいと思います。

社会福祉法人あゆみ学園

理念

当法人は、障がいのある子どもとその保護者を支援するため、日本基督（キリスト）教団松山教会の青年によって始められた事業をその礎（いしずえ）とし、キリスト教の愛の精神に基づいた社会福祉事業を行い地域社会に貢献します。

『のぞみ、待つ』

松山教会

牧師　上島　一高

今年の春先、新潟教会時代の知り合いで、佐渡島外海府海岸に住む「のぞみ」さんから何度か電話が入った。中身は、止揚学園の六〇周年記念に出席した際に伝えるメッセージのこと、お世話になったことを、こうも書きたい、ああも書きたいと、繰り返し口にする。悩みながら、ワクワクしている声。

彼女にはてんかん症がある。症状が出ると見る見る体を痙攣・硬直させる。ご両親が兆候を察してすぐに対応するが、心身に大きな負担だ。それでも、礼拝で分け合うためと食パンを焼き、栃の実を拾ったとクッキーを焼き、心に残ったと絵を描くその手は温かい。

お母さんは、身の回りにあるもの、自然の中にあるものを上手く用いる。傷んだ布、不要になった布は、細く裂いて緯糸とし、麻糸などを経糸として織り上げ(裂織さきおり)、海岸端のベリーを摘んでジャムにし、木の実を拾ってクッキーに。そのそばに、のぞみさんがいる。

お父さんは「赤ひげ」医師。新潟市住まい以来、路上生活者支援や福祉を受ける声なき声を代弁する。その関係で、重度心身障碍児・者と共に生きる草分け的共同体・止揚学園と深くつながって来た。「止揚」とは「異なる者の出会いにより新しいものが生まれる」の意だ。

昨年召された初代園長・福井達雨さんの母校・同志社大学神学部(筆者も出身)では、二〇一九年に「地の塩」プロジェクトを立ち上げ、学生が同園でフィールドワークをしている。達雨さんも、学生時代に出会った忘れられない光景が、その働きに進む大きなきっかけになった。

あゆみ学園と止揚学園はほぼ同年齢、地域も違い、事情も異なるが、その足取りを尋ねると、共感し合えるところが大きい。コロナ前、四国に現・福井生園長をお呼びして話を伺おうと計画しながら断念した。新しい年に、ぜひ、実現したい。

この秋、のぞみさんのお母さんから、「我家の前の海の向こうから朝日の昇る時の写真です」と絵はがきが届いた。「海が大好き」な私のために届けたいと思いながら、のぞみさんの調子が悪く、だいぶ時間が過ぎたものの、「日常生活が戻り、やっとお届けでき」たと。

「日の出の四〇分位前、まだ暗いうちから待ち、瞬間を見たくて、ずっ～と待っていて写した物です。五枚位、少しずつ変わっていく姿を写しましたが、のぞみと二人で決めて、この一枚をプリントしました。」

それは、外海(日本海)に向いて、薄雲の無い日を毎日待ちながら撮れた奇跡の一枚だった。望み待つ日々と、ついにやって来たその瞬間を思い浮かべたとたん、軽いハガキが、私の手の中でずしりと重みを増していた。

『　周年記念誌に関わって　』

あゆみ学園　管理者　武智　一郎

今年（令和５年）の夏、念願の『あゆみ学園六十周年記念誌』を、無事発行することができました。なぜ「念願の」などともったいぶった言い方をするかというと、あゆみの創立六十周年は３年前だったからです。それではどうして発行がそんなに遅れたのかというと、編集事務局ではお題目のように「コロナが…」と言い訳しておりましたが、原稿を集めて編集するのにコロナはあまり関係なく、直接接触を避けられない私たちの仕事の性格上、コロナ対応であたふたして手が回らなかったのが真相です。また、六十周年ともなると、関係者を思い出し、執筆者を決め、連絡先を突き止め…というのにひどく時間がかかったのも事実です。すべて言い訳ですが。

記念誌発行に当たり『あゆみ学園』の歴史を読み返し、寄稿いただいた原稿を整理しながらひしひしと感じたのは、初期の『あゆみ学園』を知る方々の、思い入れの深さでした。当時ほんの少しでも子どもに幸せをと願い続けた親の思いと、その子らのためにやらねばと念じた周りの人々の決意が一つとなって、貧しい中から闇夜の小さな灯台のように生まれた『あゆみ学園』。

その誕生にかけた思いの一端をうかがい知るにつけ、原動力となった「やらねばならないから、やるのだ」という、あまりにも単純で直線的なパワーに圧倒されました。それは昨今福祉施設などを立ち上げようとすると当然浮かんでくるだろう「ニーズ」とか「経営」とかいう言葉が本当に薄っぺらく感じられてしまうほどで、私たちの働く場のルーツが『あゆみ学園』であることに改めて誇りを感じるまたとない機会となりました。

『「ＳＤＧｓ」あれこれ　』

多機能型事業所あゆみ　管理者　渡部　剛

ＳＤＧｓをご存知ですか？Sustainable Development Goals の略で「持続可能な開発目標」と訳されています。私もＳＤＧｓを見たり聞いたりすることは多いのですが、持続可能な開発目標ってどんな内容だったかな?と首をかしげる一方、重要、重大なことはなんとなく分かるし、期待はしているものの、芳しい成果が出ているようには見えないどころか、最近では落胆せざるを得ない残念な話ばかりです。

その大要は、まず目標は17あります。

１貧困をなくそう　２飢餓をゼロに　３全ての人に健康と福祉を　４質の高い教育をみんなに　５ジェンダー平等を実現しよう　６安全な水とトイレを世界中に　７エネルギーをみんなにそしてクリーンに　８働きがいも経済成長も　９産業と技術革新の基盤をつくろう　10人や国の不平等をなくそう　11住み続けられる街づくりを　12つくる責任つかう責任　13気候変動に具体的な対策を　14海の豊かさを守ろう　15陸の豊かさも守ろう　16平和と公正をすべての人に　17パートナーシップで目標を達成しよう

どれも大切な必要なことばかりで、世界はその実現を迫られており、それぞれのテーマごとに課題解決のための具体的なターゲットが１６９項目設けられ、また問題別のデータ(例えば病気になってもお医者さんに診てもらえるとは限らない実情を示すデータとして医師一人に対する人口が、日本の４１４人に対しマラウイでは６３６９４人、１５４倍である)とか、紛争で始めに脅かされるのは、子供たちの命と健康であると語る動画や、さらに目標実現に尽力している人々の姿を映すコラムなどで構成されています。

いわば人類と地球の夢と希望が満載されたものですが、単なる夢ではなく、関係する当事者、対象者にとっては切実で、殆ど命がけの事柄も多いはずです。例えば、コロナで苦しんだ人、あげくに亡くなった方も少なくない。目標３の保健、「あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保する」という目標が全く空しいものに感じられることもあります。

またロシアがウクライナを侵略し破壊と殺戮を続けたり、イスラエルとガザの住民の間で悲惨

な虐殺が繰り広げられている。かと思うと、雨が全く降らず耕作もできず砂漠ばかりが広がるアフリカから「気候難民」が小舟に乗ってEUに向かおうとして難破する。「13気候変動に具体的な対策を」という目標が掲げられているのに。

一体、あの輝かしい人類の未来を拓くために、グローバルなパートナーシップを継続しようという決意と合意は何処に行ったのか、もう２０３０年まであと7年しかありません。

しかし、だからといって、落胆や消沈してばかりはいられない。１００％達成はすぐには無理でも、可能な限り近づく努力を続けることこそSustainableそのものであり、自分達の使命である。自分達が希望の光を捜し出し、消えかける熱意の火を掻き立てていかねばなるまい。地球の人口が八十億人から百億人になっても、命を授かった人間が等しく幸福な人生を送ることができるように、我々の世代も行動しなければなるまい、と物思いにふける晩秋の日々を過ごしています。

『季節を感じよう』

児童発達支援センター　あゆみ学園

保育士　橋本　沙紀

今年は10月に入っても暑い日が続き、園では半そでで過ごしている子が多くいました。11月に入って、ようやく秋らしい風が吹いてきています。近年、なかなか季節を感じにくい気候ではありますが、やはり気候やイベントで季節を感じられると、なんだかワクワク、そわそわ…楽しみな気持ちになります。

あゆみ学園では、行事やイベントはもちろん、日々の活動の中でも歌や絵本、遊び内容に季節を意識したものを取り入れています。先日は、まつぼっくりで遊びました。トングではさんで運ぶ子、並べる子、両手でたくさん触って感触を楽しむ子…子どもたちの反応は様々でした。初めて見たのか、まつぼっくりに驚き、触ろうとしない子もいました。はじめはビックリしていても、お友達が楽しそうに遊んでいるところを見て、徐々に興味を持つこともあります。もちろん、私たち職員も楽しさを感じられるように一緒になってたくさん遊びます。こうしたその季節ならではの物に触れることで、子どもたちの興味が広がるきっかけになればよいなと思っています。

まつぼっくりだけでなく、秋と言えばどんぐり、落ち葉、柿、おいも…身近でなくても、絵本や歌の中で感じることができるものもあります。たくさんの物に触れて、いろいろなことを感じてほしい！これからも季節を感じられる遊びを大事にしていきたいと思います。どんどん気になること、好きなもの、楽しい遊びが増えますように。

『はじめまして』

児童発達支援センターあゆみ学園

保育士　岡本　由依

あゆみに勤めはじめて半年が過ぎました。保育士としての経験はあるものの、あゆみ学園のような施設で勤めるのは初めてで、勉強の日々です。子どもたちの笑顔はとても可愛くて、成長が見られた時は嬉しく思います。これからも子どもたちが楽しく過ごせるように努めていきたいです。よろしくお願いします。

『　あそびのなかでのそだち　』

児童発達支援事業どんぐり

保育士　　久世　愛実

産休、育休を経て7月から復帰させていただきました。今年度はどんぐりで様々な年齢の元気いっぱいの子ども達と楽しく過ごしています。お母さんと離れて涙を流したり、友だちとケンカして怒ったり、みんなで楽しく遊んで笑ったり、様々な表情を見せてくれる子どもたちに私も笑顔と元気をもらっています。

そんなどんぐりの子どもたちは外遊びが大好きです。夏の暑さが続いてなかなか外に出られない日が続きましたが、やっと暑さが落ち着いてきて外に出られるようになるとみんな大喜びです。登園してスケジュールボードを見て外に行けることが分かって喜んだり、「早く遊びたい」「一緒に遊ぼうね」と約束して急いでお弁当を食べたりする子もたくさんいます。お外でしか出来ない遊びも多いためみんなウキウキして遊びに行っています。

どの年齢のお友だちにも人気な遊びの一つの砂遊びでは、いろいろな遊び方が見られるので私も大好きです。小さいお友だちはバケツに砂を入れたり大きな穴を掘ったり、山を作ったり道具を上手に使って遊んでいます。大きいお友だちになると山を作ってトンネルにしようと崩さないようそっと穴を掘ったり、バケツの砂をひっくり返してケーキを作って葉っぱや枝をのせて飾りつけたりといろいろ工夫しながら遊んでいます。そんな子どもたちを見て何か付け加えたら喜んでくれるか、どんなことをしたら楽しんでくれるだろうと自分も楽しみながら遊び方を考える毎日です。

どんぐりでは毎日年齢や通っている園も違う様々な子どもたちが通っているのでみんな違った遊び方があり、子どもたちの発想力にいつも驚かされています。大人が思いつかない物を使って好きな物を作ったり、自分でアレンジした遊び方を教えてくれたり、子どもたちから学ぶことがたくさんあります。柔軟な発想力の子どもたちに負けないよう視野を広げて楽しいことを見つけていこうと思います。

『　たくさんの出会い　』

あゆみ学園指定相談支援事業所

相談支援専門員　　梶原　佳代

今年もこの学園報を書く時期になり、いつもながら、１年は本当に早いなぁと実感しております。２０２３年皆さんにとってどのような１年だったでしょうか？

今年もたくさんの出会いがありました。

児童さん成人さん合わせて、現在約１３０名担当させていただいております。例えば児童さんであれば、１人の児童さんに対して、親御さん・兄弟姉妹・保育園幼稚園学校等通っている場所の先生・利用している福祉事業所の担当職員さん・主治医さん・習い事の先生・地域の方々・・・等、また１人の成人さんに対しては、親御さんまたは子どもさんや旦那さん（お嫁さん）・兄弟姉妹・利用している福祉事業所の職員さん・主治医さん・地域の方々…等、１人の利用者さんに対して、１０人程度の方と関わりをもたせていただいております。担当してる１３０人ひとりひとりに、約１０人関係する方がいると考えると、今年１年約１３００人の方からお話を聞かせてもらったことになります。こんなにたくさんの方と接することができた１年と思うと、改めて今年も良い１年だったなと感じます。

よく「相談支援専門員って大変でしょ。」「忙しいでしょ。」と言われることが多いです。確かに忙しい時もあります。しかし、このようにたくさんの方と出会い、お話を聞かせてもらうことができる相談支援専門員って、実は素敵な仕事だと思いませんか。時にはいろんなことでしんどいこともあります。しかし逆にたくさんの人からお話を聞かせてもらったり、想いを教えてもらったりすることで、私自身日々たくさんの元気をもらっています。

基本的な仕事内容は、簡単に説明すると、福祉サービス利用に必要な受給者証を発行するためのお手伝いです。その人の夢や想い、やりたいこと等を聞かせていただき、そこに必要な内容を一緒に考えさせていただいております。時には思っていたことと違い、うまく前に進めず、悩むこともあります。しかし相談支援専門員の私１人ではどうにもならなくても、１３００人の力があれば、解決に向かうことも多々ありました。この場を借りて感謝申し上げます。

これからも、困ったこと等があれば、気軽に声をかけてください。もちろん困ったことがなくてもお

気軽に。そして逆に私が困っていたら助けてくださいね。たくさんの方々との出会いを楽しみにしております。

『　保育士一年生　』

小規模保育事業所ひかり　保育士　塩崎　優花

「将来の夢は？」と聞かれると必ず「保育士」と答えていた学生時代。今年の三月に大学を卒業し、四月からは憧れの保育士になりました。保育実習でお世話になった園で保育士として働けている事をとてもうれしく思います。

毎日ドタバタですが、少しずつ慣れてきて、子どもたちの愛らしい姿に癒されながら頑張っています。泣いてアピールしていた子も、ジェスチャーで教えてくれるようになり、そのうち言葉で伝えてくれるようになり・・・子どもの成長の早さに驚かされる日々です。

イヤイヤ期の子どもとの関わりがまだまだ難しく、どのように関わればいいのか、どこまで手伝っていいのかと迷いますが、「じぶんで」という気持ちを大事にしながら、困ったときにはすぐに助けられるよう見守っています。一人で出来たときには「すごいね」「一人で出来たね」と声をかけると、とっても嬉しそうな表情をしていて可愛らしいです。

あっという間の九ヶ月の向こうに、もう保育士二年生が見えて来ました。二年目はもう少し自分自身にも余裕をもって、毎日を大切にして過ごしていきたいと思います。

『　温かさに触れる日々　』

企業主導型保育事業所あゆみ保育園　保育士　大西　綾

去年出産をし、今年の三月に復帰をしました。大きなお腹に子どもたちからのパワーを送ってもらい、先生方は体調のことを気にして下さり、温かさを感じながら産休に入りました。

そして早々と月日が流れ、仕事復帰へと。初めての育児と仕事との両立、久しぶりに会う子どもたちの反応など不安な気持ちが大半を占めていましたが、子どもたちも先生方も温かく出迎えてくれ不安な気持ちもすぐになくなりました。

復職後も、子どもの体調不良で突然休暇を頂くこともありますが、先生方みんなでフォローして下さり、育児の悩みも相談にのって頂きながら、楽しく仕事をしています。

あゆみ保育園の子どもたち、先生方の温かさに感謝をしながら、楽しく笑顔で育児と仕事を頑張っていけたらなと思っています。

『「役回」りから「地域」と「人」を考える』

多機能型事業所あゆみ　生活介護事業　生活支援員　筒井　英規

コロナ前頃より色々な役が私に回ってくるようになりました。大方は順番で回ってくるような町内の組長や班長のような役が多いが、農家はこれとは別に土地改良区の組長・班長・配水等が別で回ってきて、時には両方当たる場合もあります。前もって分かっている役は心の準備もできているが、飛び込みの役も多くあります。

ある日近所のオヤジさんが訪ねてきて、いきなり「先日の役員会で来年度の改良区会計に推薦されたのでヒデさんお前やれよ」と言うのである。推薦とか指名されたと言えば聞こえはエエが、ほとんど招集令状みたいなものである。よくよく聞いてみると任期は1期2年であるが2期4年が慣例となっており、当然お金を扱うのが役目で億単位の公金を預かり年度毎に決算書を作成し総会で報告する。他にも水利費の徴収、研修旅行や懇親会の手配等。ザックリ言えばそんなところである。

それだけ聞いただけで私は静かに首を振って、「そんな大役は無理です。仕事にも行っているし中途半端なことをして皆さんに迷惑をかけてもいけません。そんな役ができる器でもありません」ときっぱりお断りした。がオヤジさんはそんな返事は先刻承知しているのか全く聞く耳を持たないのである。次に出た言葉は「ワシは明日から入院する、手術も決まっておる。区長には話を通した上で来ているのでなんの心配もない」と言うではないか。心配はこっちがすることである。

さっきは推薦されたと言っていたがちょっとニュアンスが違うな～などと考えていると、「分かったか確かに申し渡したゾ」と言って帰ろうとするの

で、「そんなこと急に言われてもちょっと考えさせてもらわんと」と言うと「考えるててナニを？」と言いたげな顔で帰ってしまい、２日後には本当に入院してしまった。

翌夕方には早速区長が訪ねて来て開口一番「オヤジさんから聞いている通り、次の日曜日引継ぎをするので改良区事務所に来るように、なお車で来たらイカンよ」と、シナリオ通りではないか。将棋のごとく詰んでしまっている。飲み会に釣られた訳ではないがもう「分かりました行きます」と返事するしかなく、それを聞いた区長はニッコリ笑顔で帰って行った。

その後はザックリ説明された仕事どころか町内会・神社・お祭り・ＪＡなどの充て職もたくさん就いてきて、休日は水路清掃に加えて各種会合やイベントに参加したくさん飲ませても頂いた。農家総出の草刈り作業中三名が蜂に刺されて内二名が救急車で運ばれたり、研修旅行中集合時間に帰って来ない方を探していると酔っぱらって隣のバスに乗っていたり、と思い出深いこともたくさんあった。

任期後半はコロナで改良区も例外なく自粛期間となり、ほとんどの活動が中止となり少し余裕もできた頃の昨年度末、２期４年の任期を無事終えることができた。

結論から言えばやって良かった。水は上（かみ）から勝手に流れてくると思っていたがそうではないのである。最初は町内各地の水利河川あるいは水源地の呼び名や昔から伝わる水路の仕組み・農家独特のしきたり・慣習等知らないことばかりで何を話しているのかサッパリ解らず、先輩方に一つ一つ聞きながら覚えていった。また充て職の付き合いも多く今まで近くに住んでいても話したこともない方や、他町の方とも知り合うことができたことは大きな収穫であった。

そんな中でわが町内には福祉施設が多いことに気がついた。多くは高齢者施設でお祭りの際は若いころ神輿を担いだり、獅子舞をしていた入所者もいて盛んに話しかけられることもあり、その顔はとてもいきいきとしていました。また違う施設の夏祭りに招かれ、見知らぬ入所者の方々に戦時中や田舎暮らしの話をしてもらったこともあった。

福祉のあり方が施設入所中心主義から地域生活への移行、地域との共生へと言われて久しい。役を受けたことでこの「地域」とは何か考える機会をもらったような気がする。

ある先輩に「最後は自分にできる形で地域に恩返しせなイカンぞ。それが年廻りと考えよ」と言われた。

この言葉を頭の片隅に置き請われた役はなるべく拒まず、この地域と繋がって共に生きようと思う今日この頃である。

『　就労継続支援Ｂ型　活動報告　』

多機能型事業所あゆみ　就労継続支援Ｂ型事業

職業指導員　永井　壮

就労継続支援Ｂ型事業所あゆみでは、現在十三名の利用者が主役となり、今後の就労や工賃向上を目標にして、五種類のジャム（いちご、いちじく、キウイ、みかん、トマト）の製造・販売、各種農作業、施設外作業(主に一般家庭の庭の草刈りや簡単な樹木の剪定等)、そして軽作業受託(アメニティセットの袋詰め、食品袋のシール貼り等)の四つの作業を行い、利用者、職員共に一丸となり日々奮闘しています。そして、この四つの作業の中で、ここ数年の間に目覚ましく成長してきたのが農作業です。まず、平成二十五年十一月に近隣の方から約一反半程の耕作地を新たにお借りし、野菜の栽培量を増やすことができました。それに伴い平成二十七年六月には年賀寄付助成金を受けてトラクターを購入し、農作業の効率が大幅に上がりました。平成二十八年七月には苺の収量増加を目的とし、ハウスに電照設備を増設しました。また令和元年にはお隣の元・橋本鉄筋様の土地を購入させて頂き、ビニールハウスを二棟増築し、苺、トマトを栽培しています。更に、最近では、近隣の方から一反程の畑をお借りできることとなりじゃが芋等を作れるようになりました。

それもこれも、地域の方々や、関係者の皆様に支えられてのことと、利用者・職員一同、日々感謝しています。

就労継続支援の面では、今年また一人の利用者様がステップアップを目指し、『就労移行支援事業所』に転所されました。彼の目標は就職し、自立した生活を送ることです。社会に出ると今まで以上に辛いことや、悩むこともあると思います。しかしそれ以

上に、自由や楽しいことが待っているので、周囲の方への感謝の気持ちを忘れず、前向きに頑張ってほしいと願います。

最後になりますが、これからも利用者の皆様の支援をさせて頂けることの喜びを噛みしめながら、より一層励んでいきますのでよろしくお願いします。

あゆみ学園　父母の会　役員紹介

◎ **会　長　長谷川　理香**

今年度、会長を務めさせて頂いております。先生方、保護者の皆様のご協力もあり、充実した活動ができているように感じております。ありがとうございます。コロナの制限も解除され、賑やかさも戻って参りました。任期もわずかとなりますが、精一杯務めさせて頂きます。よろしくお願い致します。

◎ **副会長　上原　裕香**

今年度、副会長をさせて頂いています。子ども達が楽しく園生活を送れるよう、残りの任期も精一杯務めさせて頂きます。よろしくお願いします。

◎ **会　計　三好　朋美**

今年度、会計をさせて頂いています。

先生方、保護者の皆様のご協力を頂きながら活動してこれました。ありがとうございます。

残りわずかとなりましたが、最後まで精一杯努めさせて頂きます。宜しくお願いします。

◎ **書　記　宮内　優子**

今年度、書記をさせて頂いています。コロナ禍の制限も緩和され、たくさんの楽しい活動で子どもたちの笑顔があふれるよう、残りの任期も精一杯務めさせて頂きます。

多機能型事業所あゆみ　家族会　役員紹介

◎ **会　長　谷本　加代**

◎ **副会長・書記　川崎　佳子**

◎ **会　計　橘　順子**

◎ **監　事　竹村　洋子**

◎ **監　事　梅岡　典子**

コロナ禍前とは同じにとは、なりませんが、今年度は様々な行事が行われました。

中でも、ぶどう狩り、体育館を借りての運動会やその後の会食などは、はじめての方もいたでしょう。久々の方も、とても楽しかったと思います。これからも気をつけながらにはなると思いますが、たくさんの体験をさせてもらえるよう家族会として協力できたらと思います。

お知らせ

・令和４年度の苦情受付に関して各事業とも受付件数０件。処理件数０件でした。

・決算書類や事業案内は、当法人ホームページに掲載しております。

・60周年記念誌を当法人ホームページへ全編掲載しました。

※編集の過程において、一部原稿が落丁しておりました。大変失礼いたしました。

〒790-0047　松山市余戸南６丁目６番９号

社会福祉法人あゆみ学園

児童発達支援センターあゆみ学園

児童発達支援事業どんぐり

ayumi-g@bz01.plala.or.jp

HP　TEL 089-972-0999　Fax 089-972-3511

〒790-0047　松山市余戸南６丁目３番26号

多機能型事業所あゆみ

生活介護事業所あゆみ

就労継続支援Ｂ型事業所あゆみ

あゆみ学園指定相談支援事業所

ayumi-s@ksn.biglobe.ne.jp

TEL 089-974-5141　Fax 089-907-6100

〒790-0912　松山市畑寺町843番地１号

多機能保育事業所あゆみ

小規模保育事業所ひかり

企業主導型保育事業所あゆみ保育園

TEL 089-948-4402　Fax 089-977-4412